気候のための農業イノベーション・ミッション

○ 気候変動に対応するための農業・食料システム分野におけるイノベーションを加速するための、米国およびUAEが主導する国際イニシアティブ。Agriculture Innovation Mission for Climate（略称　AIM for Climate／AIM4C）

○ 50か国及びEUのほか、多数の民間企業等が「パートナー」として参加。イノベーションへの投資の増加や、パートナー間の連携によるイノベーション（研究開発、実証、展開）の取組（イノベーション・スプリント）等を推進。

経緯

・2021年４月の気候サミットにて、米国及びUAEが立ち上げ計画を表明。

・日本は、同年9月の米国のケリー特使の訪日に際しての日米共同発表にて支援を表明、その後の国連食料システムサミットで、我が国を含む新たな参加表明国が発表。

・同年11月のCOP26において、米国のバイデン大統領が本イニシアチブの立ち上げと、イノベーションを加速するため、今後５年間で、まずは40億ドルの投資を動員する目標を表明。

・2022年11月のCOP27において、各国政府及び民間から合計80億ドルの投資（実績・コミット）等が報告。

・2023年５月に米国ワシントンD.C.で開催された「AIM for Climateサミット」にて、計130億ドルの投資（実績・コミット）、イノベーション・スプリントが51件に達したこと等が報告。

参加国・地域・活動等

・2023年５月現在で50か国（※１）及びEUが参加。また、500以上の民間財団、企業、国際機関、研究機関等が参加。

（※１　アルゼンチン、豪州、アゼルバイジャン、バングラデシュ、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、コスタリカ、デンマーク、エジプト、フィジー、フィンランド、ジョージア、ガーナ、グアテマラ、ガイアナ、ホンジュラス、ハンガリー、インド、アイルランド、イスラエル、**日本**、ケニア、リトアニア、メキシコ、モロッコ、モザンビーク、オランダ、ニュージーランド、ナイジェリア、オマーン、パナマ、パラグアイ、フィリピン、韓国、ルーマニア、シンガポール、スペイン、スリランカ、スウェーデン、バハマ、トルコ、ウクライナ、UAE、英国、米国、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム）

・イノベーション・スプリント（注：活動資金は自己調達）や、技術情報のオンラインでの情報交換（イノベーション・ハブ）等を推進。

我が国の対応

・閣僚会合（第１回ドバイ（2022年2月）、第２回ワシントンD.C.（2023年5月））に出席し、みどりの食料システム戦略に基づくイノベーションの強化の取組等を報告。

・2023年４月の G7宮崎農業大臣会合にて、「気候変動に対応するイノベーションと行動」と題したセミナーを実施。